



2023年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年6月12日

上場会社名 株式会社 シャノン 上場取引所 東
 コード番号 3976 URL <https://shanon.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 健一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理担当 (氏名) 友清 学 TEL (03) 6743-1551
 四半期報告書提出予定日 2023年6月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年10月期第2四半期の連結業績（2022年11月1日～2023年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第2四半期	1,450	28.2	△134	—	△137	—	△137	—
2022年10月期第2四半期	1,130	△0.6	△148	—	△144	—	△145	—

(注) 包括利益 2023年10月期第2四半期 △138百万円 (—%) 2022年10月期第2四半期 △143百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第2四半期	△46.35	—
2022年10月期第2四半期	△49.68	—

(注) 1. 2022年10月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額のため、記載しておりません。

2. 2023年10月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額のため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第2四半期	2,177	252	11.6
2022年10月期	1,840	285	15.5

(参考) 自己資本 2023年10月期第2四半期 251百万円 2022年10月期 285百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年10月期	—	0.00	—	—	—
2023年10月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年10月期の連結業績予想（2022年11月1日～2023年10月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,500	42.5	70	—	72	—	53	—	18.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年10月期2Q	3,051,700株	2022年10月期	2,934,400株
② 期末自己株式数	2023年10月期2Q	254株	2022年10月期	254株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年10月期2Q	2,971,043株	2022年10月期2Q	2,931,846株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2023年6月13日（火）に、機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループが属するクラウドサービス市場においては、クラウドサービスを利用している企業の割合は引き続き上昇傾向にあります。総務省の令和4年「通信利用動向調査」によると、2022年度末におけるクラウドサービス利用企業の割合は72.2%（前年70.4%）に拡大しています。また、同調査によると、資本金規模別のクラウドサービス利用状況においても、大企業を中心に引き続きその利用率は拡大傾向にあります。このように成長を続けるクラウドサービス市場の中で、当社が属するマーケティングオートメーション（SaaS）分野も例外ではなく、今後も10.1%（2021～2026年度の年平均成長率）の市場成長率が見込まれています（出展：株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場2022年版」）。

一方で、コロナ禍で影響を受けていた当社のマーケティング活動やイベントクラウド事業において、コロナ禍を脱し、社会活動を取り戻しつつある中で、コロナ禍で培ったウェビナーを活用した自社マーケティング活動を継続しつつも、リアル展示会への出展や、リアルイベント開催への回帰の動きが鮮明となってきています。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高については、サブスクリプション事業を中心に概ね順調に推移しました。また、費用面については、中期的な成長加速を実現するために積極的に採用を行ってきたことにより人件費は前年同期比で増加していますが、足元では中途採用を中心に採用活動を少し抑制し、既存人員の有効活用のフェーズに舵を切っています。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は1,450,057千円（前年同期比28.2%増）、営業損失は134,477千円（前年同期は営業損失148,047千円）、経常損失は137,024千円（前年同期は経常損失144,955千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は137,717千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失145,653千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、前第2四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の単一セグメントから「サブスクリプション事業」「イベントクラウド事業」「メタバース事業」の3区分に変更しておりましたが、2022年6月30日付で後藤ブランド株式会社の全株式を取得したことに伴い、「その他」としておりました広告事業の重要性が増したため、前第3四半期連結会計期間より新たに「広告事業」を加えた4区分に変更しております。前年同期比については、前期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えて算出しています。

旧セグメント		新セグメント	
マーケティングプラットフォーム事業	マーケティングオートメーションサービス MA-サブスクリプション MA-プロフェッショナル CMS-サブスクリプション CMS-プロフェッショナル	サブスクリプション事業	<p>■サブスクリプション（年間契約） MA、CMSのシステム利用料 MRR（月額契約金額）、従量課金、有償保守サービス、年間契約のBPOサービス</p> <p>■プロフェッショナル MA、CMSに関する初期導入サービス、BPOサービス、WEB制作、マーケティングコンサルティング等</p>
	EM（イベントマーケティングサービス）	イベントクラウド事業	SMPを用いたイベントのシステム支援（バーチャルイベントに関するシステム構築費を含む）、会期当日支援（機材レンタルを含む）
	その他（広告）	広告事業	デジタル広告の運用、コンサルティング
	—	メタバース事業	株式会社ジクウが提供するメタバースイベントプラットフォームのシステム利用料、従量課金、初期導入サービス、BPOサービス等

①サブスクリプション事業

サブスクリプション事業は、「SHANON MARKETING PLATFORM」を中心とする年間利用契約に関する売上（サブスクリプション）とそれに付随する初期導入やコンサルティングサービス等の売上（プロフェッショナル）から構

成されています。

当連結会計年度における売上高については、最重点方針として取り組んでいるサブスクリプション売上は、順調に推移しました。また、プロフェッショナル売上についても、一部案件で納期ズレは発生しているものの規模の大きい案件も多く、順調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるサブスクリプション売上は690,711千円（前年同期比10.1%増）、プロフェッショナル売上は359,871千円（前年同期比43.4%増）、サブスクリプション事業全体の売上高は1,050,582千円（前年同期比19.6%増）、営業利益は68,459千円（前年同期比174.9%増）となりました。また、当第2四半期連結会計期間末における契約アカウント数は、532アカウント（前期末比4.9%増）となりました。

②イベントクラウド事業

イベントクラウド事業は、昨年後半から徐々にリアルイベント開催への回帰の傾向が見受けられるようになってきており、当社のイベントクラウド事業を取り巻く市場環境は改善してきています。現状では前年同期に比べて大型の案件が少ない状況ではありますが、案件数では昨年を上回る状況となっています。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は256,036千円（前年同期比20.0%増）、営業損失は1,749千円（前年同期は営業利益24,655千円）となりました。

③メタバース事業

メタバース事業は、リアルイベントへの回帰の流れは一部逆風となるものの、影響を受けるプライベートショーや展示会だけでなく、ウェビナー、採用イベントやマッチングイベント、ショールームなどの案件や、現在商談中のものでは社内イベントや周年イベント、IRイベント、学会など活用シーンにも広がりが出てきており、受注済みの案件を含めると既に前期の売上実績を上回る状況となっています。また、多様化する活用シーンをしっかりと受注獲得機会に繋げられるように、積極的な事例公開や追加の機能開発、営業・マーケティング体制の強化にも引き続き取り組んでいます。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は19,103千円（前年同期比115.5%増）、営業損失は35,468千円（前年同期は営業損失30,845千円）となりました。

④広告事業

広告事業は、前第3四半期連結会計期間より新たに連結範囲に含まれることとなった後藤ブランド株式会社の寄与もあり、大幅に売上高は増加しております。また、本格的な売上貢献はこれからという状況ではありますが、前期にリリースした国内初のサードパーティークッキーに依存しないクッキーレス型のダイナミックリターゲティング広告の受注も順調に推移しています。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は124,334千円（前年同期比312.2%増）、営業利益は9,704千円（前年同期は営業損失791千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、2,177,536千円（前連結会計年度末1,840,823千円）となり、336,712千円の増加となりました。このうち、流動資産は1,081,266千円（前連結会計年度末770,986千円）となり、310,280千円の増加となりました。この主な要因は、現金及び預金が356,901千円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,084,741千円（前連結会計年度末1,064,921千円）となり、19,819千円の増加となりました。この主な要因は、投資その他の資産のその他に含まれる敷金が16,052千円減少した一方で、『SHANON MARKETING PLATFORM』の機能強化や『ZIKU』の開発等によるソフトウェア及びソフトウェア仮勘定の合計が39,640千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、1,924,824千円（前連結会計年度末1,555,414千円）となり、369,410千円の増加となりました。このうち、流動負債は891,798千円（前連結会計年度末1,036,204千円）となり、144,405千円の減少となりました。この主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が24,653千円増加した一方で、前受金が132,227千円、短期借入金が50,000千円それぞれ減少したことによるものであります。また、固定負債は1,033,026千円（前連結会計年度末519,210千円）となり、513,816千円の増加となりました。この主な要因は、社債が594,460千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、252,711千円（前連結会計年度末285,409千円）となり、32,697千円の減少となりました。この主な要因は、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ21,802千円増加し、新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ30,930千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が137,717千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の通期の業績予想につきましては変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	264,179	621,080
受取手形、売掛金及び契約資産	357,420	345,883
仕掛品	29,511	15,734
その他	119,875	98,568
流動資産合計	770,986	1,081,266
固定資産		
有形固定資産	51,938	48,141
無形固定資産		
ソフトウェア	358,560	447,733
ソフトウェア仮勘定	146,288	96,755
のれん	230,522	216,910
その他	6,069	7,717
無形固定資産合計	741,441	769,116
投資その他の資産		
その他	271,542	267,482
投資その他の資産合計	271,542	267,482
固定資産合計	1,064,921	1,084,741
繰延資産	4,915	11,528
資産合計	1,840,823	2,177,536
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	128,965	95,017
短期借入金	50,000	—
1年内返済予定の長期借入金	120,368	145,021
1年内償還予定の社債	55,000	40,000
未払法人税等	5,678	10,443
前受金	416,975	284,748
賞与引当金	68,174	71,649
その他	191,042	244,918
流動負債合計	1,036,204	891,798
固定負債		
社債	120,000	714,460
長期借入金	399,210	318,566
固定負債合計	519,210	1,033,026
負債合計	1,555,414	1,924,824
純資産の部		
株主資本		
資本金	449,046	501,778
資本剰余金	94,120	146,852
利益剰余金	△265,689	△403,406
自己株式	△485	△485
株主資本合計	276,991	244,739
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	157	291
為替換算調整勘定	7,960	6,587
その他の包括利益累計額合計	8,117	6,878
新株予約権	300	1,093
非支配株主持分	—	—
純資産合計	285,409	252,711
負債純資産合計	1,840,823	2,177,536

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
売上高	1,130,796	1,450,057
売上原価	384,404	529,254
売上総利益	746,392	920,802
販売費及び一般管理費	894,440	1,055,280
営業損失(△)	△148,047	△134,477
営業外収益		
受取利息	54	15
受取手数料	73	73
助成金収入	6,275	5,012
為替差益	—	778
その他	844	1,155
営業外収益合計	7,247	7,034
営業外費用		
支払利息	1,481	3,032
社債利息	412	286
為替差損	1,401	—
社債発行費償却	659	6,263
その他	199	—
営業外費用合計	4,154	9,581
経常損失(△)	△144,955	△137,024
税金等調整前四半期純損失(△)	△144,955	△137,024
法人税、住民税及び事業税	698	693
法人税等合計	698	693
四半期純損失(△)	△145,653	△137,717
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△145,653	△137,717

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
四半期純損失(△)	△145,653	△137,717
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	134
為替換算調整勘定	2,246	△1,373
その他の包括利益合計	2,278	△1,239
四半期包括利益	△143,374	△138,956
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△143,374	△138,956
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△144,955	△137,024
減価償却費	84,853	84,881
のれん償却額	8,102	13,612
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5,495	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△551	3,820
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△1,066	—
受取利息及び受取配当金	△202	△15
助成金収入	△6,275	△5,012
支払利息	1,422	3,032
社債利息	412	286
為替差損益(△は益)	481	△817
売上債権の増減額(△は増加)	114,595	9,518
棚卸資産の増減額(△は増加)	13,236	13,777
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,711	△33,947
その他	△12,255	△54,649
小計	50,588	△102,538
利息及び配当金の受取額	201	—
利息の支払額	△1,648	△3,268
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△12,315	1,319
助成金の受取額	6,275	5,012
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,101	△99,474
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△20,679	△1,620
有形固定資産の売却による収入	8,436	—
無形固定資産の取得による支出	△122,310	△122,207
投資有価証券の取得による支出	△60	△60
貸付けによる支出	—	△120
保険積立金の積立による支出	△13,024	△13,125
敷金の差入による支出	△49	—
敷金の回収による収入	4	14,252
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△75,854	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△223,536	△122,880
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	170,000	374,403
短期借入金の返済による支出	△72,272	△424,403
長期借入れによる収入	20,000	—
長期借入金の返済による支出	△68,036	△55,991
社債の償還による支出	△35,000	△35,000
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	—	614,460
新株予約権の発行による収入	—	4,111
新株予約権の買入消却による支出	—	△2,600
株式の発行による収入	—	104,748
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,692	579,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,810	△471
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△163,932	356,901
現金及び現金同等物の期首残高	491,143	264,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	327,211	621,080

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ21,802千円増加し、新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ30,930千円増加しております。これにより、当第2四半期連結会計期間末において資本金が501,778千円、資本剰余金が146,852千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間(自2021年11月1日至2022年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	サブスクリプション事業	イベントクラウド事業	メタバース事業	広告事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	878,488	213,281	8,864	30,162	1,130,796	—	1,130,796
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,575	—	1,848	—	11,424	△11,424	—
計	888,063	213,281	10,713	30,162	1,142,220	△11,424	1,130,796
セグメント利益又は損失(△)	24,903	24,655	△30,845	△791	17,921	△165,969	△148,047

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△165,969千円には、セグメント間取引消去△11,227千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△154,742千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II. 当第2四半期連結累計期間(自2022年11月1日至2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	サブスクリプション事業	イベントクラウド事業	メタバース事業	広告事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,050,582	256,036	19,103	124,334	1,450,057	—	1,450,057
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,330	—	1,523	1,388	11,242	△11,242	—
計	1,058,913	256,036	20,626	125,723	1,461,299	△11,242	1,450,057
セグメント利益又は損失(△)	68,459	△1,749	△35,468	9,704	40,945	△175,422	△134,477

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△175,422千円には、セグメント間取引消去△8,059千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△167,363千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来マーケティングオートメーション事業のみの単一セグメントとしておりましたが、前第2四半期連結会計期間より業務管理区分の見直しに伴い、単一セグメントから、「サブスクリプション事業」「イベントクラウド事業」「メタバース事業」の3区分に変更しました。また、2022年6月30日付で後藤ブランド株式会社の全株式を取得したことに伴い、「その他」としておりました広告事業の重要性が増したため、前第3四半期連結会計期間より新たに「広告事業」を加えた4区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。